

別記様式第7号

公益信託ぎふNPOはつらつファンド
実績報告書(事業助成用)

平成 18年 9月 24日

公益信託ぎふNPOはつらつファンド受託者

三菱UFJ信託銀行株式会社 あて

住 所:〒503 - 2424

岐阜県揖斐郡池田町11 - 3

法人(団体)名:特定非営利活動法人

waコミュニティ 印

代表者名:石井 智恵子

公益信託ぎふNPOはつらつファンドから平成17年度(後期)の事業助成を受けた事業が完了しましたので、下記のとおり関係書類を添えて報告します。

記

1. 事業名

温暖化ストップ・地産地消のまちづくり事業
生ごみをリサイクルして EM有機野菜を作ろう

2. 助成の種類 該当するものに を付けてください。

法人設立準備助成	立ち上げ時事業助成	展開期事業助成	人材育成事業助成

3. 助成金額

既交付金額	934千円
実績額	934千円
差し引き額	0千円

4. 事業実施期間

平成17年10月1日 ~ 平成18年8月31日 (年 11か月間)

実施した事業の実績・成果

(1) 具体的な活動状況(実施日時、場所(住所)、対象者、参加者等)

- 1.家庭でできる生ゴミリサイクルの為の出前講座 (20回) } 【 詳細別紙 】
2.生ゴミ EMボカシ作り講習会 (10回) } 利用者延べ3,888人

3.エコ農園管理、運営

生ゴミEM堆肥利用のモデル農園として、17/9月～18/8月末までに50回 町内モデル地区の家庭生ゴミ及び保育園給食生ゴミ、残飯の回収をし、農園の土に返し豊かな土づくりをする。【 詳細別紙 】

そのエコ農園で、玉ねぎ、ジャガイモ、大豆を育てる。このEM有機野菜を環境講演会、保育園の月見行事etc給食に還元する。

4.地産地消の環境祭りと講演会開催。 【チラシ、別紙 】

平成18年1月14日に別紙チラシのように、世界的に認知されている琉球大学比嘉照夫教授より、生ゴミはゴミでなく資源として活かす、台所から堆肥ができるリサイクルの講演には480名余の町民が聴き入る。

5.池田町報にWaコミュニティ便りのコーナーをいただき、生ゴミ堆肥の有効性と地球市民としてのエコライフを毎月PR

6.エコ農園に「岐阜はつらつファンド助成」による看板を建てPR

(2) 活動の成果 (開催行事等の参加規模、目的の達成度、効果等)

1. 1年間生ゴミを50回家庭生ゴミ、保育園給食etc生ゴミを回収し、エコ農園の土に返した結果、特に平成18年度4月より顕著に生ゴミが減り始めた。前年に比べ4月(5.5%減) 5月(5.58%減) 6月、7月(平年並み) 8月(8.9%減)と減少し、その減少のトン数は100ト余となり、町長、担当役場住民課も大いによろこばれ、励みとなった。(町長が出前講座のたばに出席、ゴミ減量を住民に説明した。)
- 2.環境出前講座が御縁で、「ゴミゼロの保育園」を目指して、の給食用生ゴミや、古紙も回収。エコ農園で土に返し、そのエコ農園で採れた枝豆を園の豆名月の行事、及び給食に使用した。園児の環境教育と共に、若いママ、パパの地球市民教育に役立った。その波紋は一保育園にとどまらず、町内8保育園に広がろうとしている。
- 3.地区単位で行った環境出前講座では、一地区で74戸が実践家庭となり、「地区民の関係が密になり、有機野菜や花づくりで地区が明るくなった」と区長さんからの感想。
- 4.エコ農園の看板
看板作りの会社社長さんのお陰で市価1/4でカラーの二面という立派な看板となる。道行く人からエコ農園のグレードが上がり、生ゴミリサイクルの認知度が上がる。
- 5.地産地消の環境祭り、環境講演会
厳冬の最中、熱心な町民480名余の参加有り、講座はスタッフには再研修となり、一般の方には映像とおはなしで解り易く、大きな感動を呼んだ。エコ農園で採れたジャガイモ、玉ねぎによるカレーバイキング、玉ねぎサラダを250名余の人が食し、有機野菜を味わい体感することが出来た。このカレーバイキングこそが、480名余出席の呼び水であった。

(3) 今後の課題

貴ファンドの助成により、生ゴミを土に返す、生ゴミリサイクルを町民に訴える環境出前講座に始まる数々の事業を展開することが出来た。結果、予想を超える町民の理解、協力、実行が得られ増加の一途であった。燃えるゴミが減少に転じた事は、大きな励みとなった。しかし、大多数の町民は「町の回収車に出せばおしまいなのに・・・」といった意識であり、「めんどくさい」が常識であります。この動かない大衆のレベルに合わせ、しかも認識実行へ持ってゆく環境教育をあの手、この手で何度も何度も開催し続ける必要があります。一般的には「生ゴミ研修」と聞くと、一歩うしろに下がり、断る理由を考えるのが常識。この常識を非常識になるまで楽しいステキなエコライフの実践研修へと知恵を出さねばならない。ともあれ、貴ファンドのお蔭により、田園の町池田町の利＋生ゴミを活かす実践＝持続可能な豊かな暮らしを自分の意志によって鍵を開け始めた町民が約600戸存在することです。